

「神のことばで生きる」

申命記
マタイによる福音書

第8章 2節～3節
第4章 1節～11節

説教 岡村 恒牧師

「人は、…神の口から出る一つ一つの言で生きる」(4節)。2012年の標語として、繰り返し聞き続けた言葉でした。そしてこの言葉の通りに、私たちが本当の意味で生きるのは、ただ神の憐れみにより、神の言葉によるということを確認して歩んできました。《荒野の誘惑》と呼ばれる出来事が記されている場所を、今日、もう一度共に読みしています。主イエス・キリストがバプテスマのヨハネから洗礼をお受けになった直後のことです。

この日、主イエスは御霊によって荒野に導かれました。《荒野の誘惑》の出来事は、単に主イエス・キリストの地上の生涯のある日の出来事を記したものではありません。何故なら、この場面には、主イエスとサタン以外に誰ひとりいないのです。目撃者はいません。主イエスご自身の御霊がマタイにこの場面を見せ、記されることがなければ、誰もこんなことがあったことさえ知らないはずで、神ご自身が、今日ここで御言葉を読む私たちに、この《荒野の誘惑》の出来事をお見せになりたかったのです。主イエスというお方がいったいどういうお方か、そして私たち人間が生きるとはどういうことかを、この物語は今、私たちに向かって明らかにしています。

主イエス・キリストは40日40夜、徹底して肉体の弱さを味わい、誘惑にあい、サタンと対決をして、その中で私たちと神との確かな結びつき、神の計画が実現していく私たちの人生の祝福をお示し下さいました。これは主イエスご自身のための出来事ではありません。最初からサタンが知っていたように、主イエスはサタンに屈するようなお方ではないし、《荒野の誘惑》に遭わなければ準備が整わないようなお方ではありませんでした。日々の生活で苦しみを味わい、また飢え乾き、神の言葉に対する不信仰を抱き、この世の権威や力に誘惑される私たちに、主イエス・キリストが力を与え、確かな約束を与えて下さるための物語なのです。

主イエスは、ここで申命記に記された聖書の言葉を引用して、人の命について本当に大切なこと、最も核心的なことを口にされました。人が生きるのは、ただ神の言葉によって生きるということ、本当の命とは何かという話です。神によって創られ、神の息を吹き入れられて生きるものとなった人間は、神の口から出る言葉によって命を保ち、また、神との深い結びつきを保ち続けるのです。

主イエス・キリストがサタンと語り合い、その中で口に下された一つ一つの言葉は、私たちが口に歩んだら良い言葉です。私たちが人生の意味を見失い、自分が何のために、何によって生きているのかと途方に暮れる日、口に作るパンを求めて歩む時、主イエスが口にされた言葉を思い起こしたら良いのです。神を試みる必要などありません。心からの信頼をもって、神の言葉を握りしめて生きたら良い。主はそう教えて下さいます。そして私たちが目に見えるものにすがりたくなる時、目に見える力や権威、栄華に心を揺さぶられて、神よりも自分自身の手握りしめたものに心奪われそうになる時、主イエス・キリストの言葉を私たちは思い起こして歩んで行けば良いのです。主イエスは、神の前にひれ伏して、神に仕えて生きる人生がどれほど祝福に満ちたものかをお示しになりました。神ならざる者にひざを屈する必要など無いのです。死でさえも、私たちが神から引き離すことなどできないのです。

「サタンよ、退け」(10節)。そう宣言をした主イエスの言葉には力がありました。やがて悪霊を追い出し、病気を癒すたびに、その力が神と等しい力であることが明らかになっていきます。このお方は、神から私たちを永遠に引き離そうとする罪さえも、罪の結果である死さえも退けられました。死んで、墓に葬られた後、3日目に引き上げられ、墓を空にされました。「サタンよ、退け」、と叫ぶような激しい仕方で死を退け、私たちから永遠の滅びを退けて下さいました。主イエス・キリストは誘惑に勝利されただけではなく、私たちと神の間に立ちだか一切のものに勝利してそれを鎮めて下さったので、私たちは安心して、神の口から出る言葉によって生きることができるようになりました。誰でもみ子を救い主と信じて、罪の赦しの洗礼を受けるなら、その時から神の言葉によってのみ生き続ける者として歩み出すことができます。もう何も、まことの命をその人から奪うことはできません。死でさえ、地上のあらゆる艱難でさえ。

私たちは容易に誘惑に屈し、自分自身の信仰の弱さに挫折を味わいます。しかし神はみ子イエス・キリストを遣わして、この出来事を通して明らかにお示し下さったように、私たちひとりひとりと共にいて、私たちの命を支えて下さいます。安心して、私たち自身を、全身全霊をこの神の言葉に、神の力である命の言葉にお委ねして良いのです。

(記 説教要約奉仕者)